

# 共に歩む市民の会

## 会報

1999年8月25日 発行  
たまり場広報委員会

第5号

☎ 241-0005  
横浜市旭区白根 3-2-5  
☎ 045-953-6727

### 「近頃思うこと」

共に歩む市民の会

大坂 一敏

「たまり場」に関わってから2年になろうとしています。春夏秋冬それぞれの季節の移り変わり、行事の変換、多くの人々との交わり、私の生涯に新しい彩りを加えてくれました。

先日、県民サポートセンターで、当事者グループの交流発表会を拝見する機会がありましたが、多くはフリースペース（当事者が意のおもむくままに過ごす空間）の運用の話でした。まさに「たまり場」的機能が望まれていることに思いを新たにしました。それは、市内は勿論、県域、県外からも見学、問い合わせがしばしばある事からも、注目されつつあることを実感させられます。

ところで、この分野のボランティアに足を踏み入れてからずっと思っていることは、本当の共生の世の中に変わっていくには、どのような過程を経て行ったらよいものかということです。目を少し拡げてみると、①大宮の「やどかりの里」、②東京板橋区の「JHC板橋」、③東京練馬区の「すずしろメンタルヘルスサービス」、等々みな20年近く、こつこつとあらまほしき姿をまさぐりながらの実績を積み重ねそれぞれ独自な今日のコミュニティを形成するに至っているところもあるのですが、未だにどのような方式がよいのか確信を持てずしております。旭の地にはどんなコミュニティを？精神保健福祉の大きな流れが近年いい意味で変わってきてることを感じます。この流れに目を向け、そしてその流れに参画していくなければとも思っています。さらにまた、行政、一般社会に向け、当事者も関連者も具体的に声をあげ、「想い」を知ってもらうことが必要な気がしてなりません。

ボランティアの喜び、それは、メンバーの笑顔、笑い声に接するときです！。

### 『共に歩む市民の会』総会報告

共に歩む市民の会 会計 小田 敏子

6月19日「共に歩む市民の会」99年度定期総会が旭区役所4号会議室でおこなわれた。議長に福島国男さん（あけぼの会）書記に喜田博美さん（ハイツ川井）が選出され、議事は滞りなく承認された。今年度は旭区の区作り推進費として1,820,000円の補助が認められたことが特筆される。電話相談の新設、夕食会の増設などに補助金は充てられ、今までの会費が団体月5,000円から年30,000円、個人月1,000円から年6,000円に引き下げられ、会員の負担が軽減された。

総会終了後、「たまり場」で交流会が開かれ、当日「たまり場」を利用していた人たちと「たまり場」で日々起きていること、問題点などが話し合われた。特に、新たに来た利用者の人をグループを既に作っている人たちがどう迎え入れるかについては活発な議論がおこなわれた。今後の「たまり場」の更なる発展を予感させる交流会であった。

## ～「ヴィレッジ」セミナーに参加して～

吉田 和子

高野 静子

吉田さんと高野は、「やどかりの里」が主催している、カルフォルニア州ロサンゼルス郡（人口500万人）ロングビーチ市（人口45万）にある精神障害者の社会復帰支援プログラム「ヴィレッジ」でのセミナーに3月21日～28日まで参加した。2人とも初めての海外旅行。参加者は30人。メンバーの参加は5人。彼らは旅の疲れなどは、マイペースで休みながら、私たちの通訳をしてくれたり、質問をしたり、その物おじしない態度は、とても頼もしく、この旅で様々な人に出会えたのも大きな収穫でした。宿泊したホテルは、2階建てのプールのあるリゾート・ホテルといった感じで、私たちの英単語を並べただけの要求も理解し対応してくれるホテルの応対には、あらためて多国籍国家であることを感心しました。

さて「ヴィレッジ」について、紹介します。「ヴィレッジ」は、ロサンゼルス郡が作った5つのプログラムの1つで、精神障害者に対する社会復帰支援プログラムの総称です。建物は、3階建て（賃貸）で1階は食堂、銀行、売店、メンバーの休憩室、AA（アルコールの自助組織）のミーティング場など。2階は、スタッフの部屋（メンバーは、自由に出入りが出来、部屋は低い仕切りで仕切られているだけ）。3階は会議室。1階の食堂は外部の人達にもオープンにされていて、メンバーの仕事場にもなっている。また、この建物の清掃・売店・事務所・銀行などでもメンバーは働いて賃金を得ている。

### 〈主な「ヴィレッジ」の特徴〉

- 1.精神障害はその人の一部でしかない。大人として付き合い、大人の能力を引き出す。
- 2.地域の中での生活。社会生活への参加。張りのある人生を楽しむことへのサポート。
- 3.対象者は276人。40人のスタッフで対応。補助金は、「資金頭割り制度」で年間、一人16,200ドル（138人分）5,000ドル（138人分）で年間4億円ぐらいの予算で運営している。
- 4.ハイリスク・ハイサポート失敗は得難い経験。成長の過程と捉え、失敗を恐れない。276人のメンバーをチームで24時間支援する。スタッフはポケベルを携帯していて、10分以内に対応する。中心になってサポートするのが、PSCといわれるスタッフです。PSCとはパーソナル・サポート・コーディネーターのこと、いわゆるケース・マネージャーのことですが、ここでは、ケースマネージャーはケース管理の意味になるので、使用しないということです。
- 5.ライフコーチシステム。生活の様々な面での援助をメンバーがコーチとして支援するシステムです。コーチになるためには、訓練プログラムがあり、週に3時間で、7週間の講義を受けます。例えば①交友面のコーチ②洗濯のコーチ③家事のコーチ④金銭管理のコーチ⑤仕事面のコーチなどあって、PSCがライフコーチを雇い、メンバーは、そのライフコーチが気に入らない場合は、他のコーチを選ぶことが出来ます。

\*最後にとても印象に残り感激したのは、Drマークの言葉や姿勢でした。それは「私の役割は患者さんが病気から回復するというよりも『人間的に回復する』ことへの支援です。その回復の過程とは①希望を持つ②自分自身に力を持つ（エンパワーメント）③セルフマネジメント（自分自身の力を使って回復する）④生活の中で、地域の中で役割を果たしていく－症状があっても、役割がとれていれば回復していると言える。」さらに「私は、精神の患者さんが、病気を持ちながら『どう生きようとしているか、どう生きたいか』を知ることから、多くのことを学んでいる。」ということです。

ヴィレッジは施設ではなく、活動である事をあらためて感じています。

□ 5/28 (金)  
ある日の夕食会  
のメニュー

メニュー

- ◇赤魚の煮魚（いんげん付）
- ◇大根サラダ（大根、セロリ）
- ◇なめこ汁（大根、なめこ、わかめ）
- ◇香の物（たくあん）

[チャンコ番] 柏植 光子さん

～富田（母）さん、のんちゃん、の手際よい  
お手伝いで、早く出来上りました。

By 吉田

「たまり場」の利用状況

	開所日数	(うち夕食会)	延べ人数
3月	11日	2回	105人
4月	11日	2回	129人
5月	12日	2回	143人
6月	12日	2回	152人
7月	12日	2回	139人
合計	58日	10回	668人

とある日の「たまり場」より

□ 4/14 (水) 私は字がきたない。字がきたないから困っています。自分でも読めないような字になって後で読んで、自分で分からなくなってしまって、「はて、私は、これなんて書いたのだろーか」ってそれだけで苛立ってしまうことがよくあります。ペン字でも習えばよいのでしょうか、如何せんオカネがありません。何もお金を出して習わなくても、きれいな字にしようと、努力すればよいのでしょうかけれど、読めないところが良いようなところもあるので、しょうがないですよ。読めない字を書くなんて、よくあるんですよ。困ったな、でも♪そのうち何とかなるだろーお、といってよい問題なのでしょうか。S, A,

□ 6/23 (水) 『瀬谷区家族の会（あじさいの会）で見学に来た方より』

心休まる、本当によい場所を見せて頂き、ありがとうございました。このような場所に憩えるみなさまは幸福です。大いに利用されて元気に過ごしてください。このような場所を支えていらっしゃる方々のご努力に敬意を表します。

□ 6/29 (火) 『旭区ボランティアの集い』

皆さんの様々なお話に、心がとても休まりました。私もあり人と接する機会がないので、宜しくお願ひします。

田部井、三輪 紀子、内野 和子、赤間 美津子、（木々の会）吉田、寺本、（旭保健所）高野、原田

□ 7/7 (水) 昨日、当事者の集まりが市精連関係の行事で、我が木楽舎からは、星野さんが出席され、今日、食事作りが終わり、昼食後星野さんからこれらの関連のものを見させていただきました。

私は、横浜市の精神保健福祉関係の活動でも、18の行政区の中でも、我が旭区は、結束の固さでも横浜随一だと思っています。しかし、これからは、心の病を克服して、新しく第一歩が踏み出せる体制がバックアップできるような、体制を作っていただきたいと思っていますし、そういう存在が、北海道浦賀町の「べてるの家」や、埼玉県大宮市の「やどかりの里」の様にトータルで旭区全体をネットワークを発足させ、心の病を克服した者同士で正式に働く日が来れば、恩返しができるようになりたいと思います。

By 白石 大介（木楽舎）

## とある日の「たまり場」より

- 4/3(土) 14:00~17:00 (スタッフ用のノートより)  
4時ごろから1人1人、帰っていった。にぎやかな1日が終わっていった。 深井 浩治
- 4/7(水) 18:00~20:00 伊藤 茂  
岩渕君がウイスキーを飲んでいると思ったら、麦茶だった！。
- 4/28(水) 13:00~16:00 志田 信司  
久しぶりの当番です。開けたときは、曇り空だったのが、時間が過ぎるように少しずつ晴れてきて、16時近くなても温かい。今日は役所から、高野さん他3名が来て「たまり場」をビデオに撮りたいと言つてきました。荒井さんや岩渕君、自分と、それに高野さんも一緒に撮って貰いました。ほんの12~13秒位の収録らしいです。まぁ一今日は、ゆっくりさせてもらいました。昼寝でもさせてもらって！。
- 5/22(土) 11:00~14:00 足立 文夫  
今日は、荒井さんと、深井さんが昼食に焼きそばとそうめんを買ってきててくれて、それを皆で食べた。
- 6/16(水) 13:00~16:00 星野(あけぼの会)  
来所者7名 感想 (1)自由気儘に談笑出来る。(2)純日本風造、健家な為と思うが、気分が落ちつく。(3)厨房その他、設備完備及び利用者の心がけが良い。整理・整頓も行き届いてる。  
上記のことから、環境も良く、すべての面で恵まれているので、永続できることを願っています。

- 7/16(金) 14:00~ 星六さんの氣功の会 Part II  
・参加者 16名 (Part Iは 6/18 でした。)  
この家の気を集め(星六さんによると、この家は、とてもいい気が流れているそうです。)みんなの気をあつめ、自分の体に起こる様々なことに気づき、気持ちのいいひとときでした。  
責任者 望月 真奈美(むくどりの家)

※お詫びと訂正 「前回の号で不備がございましたので、あらためて全文を掲載させていただきます。大変申し訳ございませんでした。

- 12/16(水) 曇り 13:00~16:00 「たまり場」の当番を始めてから、メンバーとのふれ合いを通して色々と話し合いの機会に恵まれ、私自身大変勉強になり実り多い年であったように思います。  
今年もあと旬日余となつたが、来年は障害者の方々を始めとしてこれを支えている皆様にとって少しでも良い年でありますように！！ 福島

### 編集後記

☆また暑い夏が巡ってきました。蚊取り線香を炊きながら、この「野口邸」を借りて一步を踏み出すかどうかの話し合いを幾度も持つてから二度目の夏です。この二年間「たまり場」は予想以上の発展を遂げてきました。その一つ一つの夢の実現を、この会報が少しでもお伝えできたとしたら、嬉しい限りです。 吉田 和子

☆毎日毎日本常に暑いですね。異常気象のせいでしょうか、色々と世間を騒がせる事件が起こっているようですが、この「たまり場」に来れば、自然の中でのんびりと自分の時間が過ごせる様な気がします。  
(なーに言ってんだか。沖柳 談) 松迫 敦子

☆久しぶりに、「たまり場」の広報誌が出来ました。今回、原稿を読ませて頂きながら、あらためて、本当に多くの人に支えられて、この場所があるのだなと思いました。これからも「たまり場」を宜しくお願ひ致します。(今回はやけに真面目だ！熱波のせい？ 沖柳 談) 沖柳 明彦